

令和2年度ネットリサーチ「県立高校に期待すること」に関するアンケート結果報告書

■結果のポイント

- 県立高校に期待することについては、「大学等への進学」が43.6%と最も高く、次いで「個性・適性に沿った教育」が37.1%、「学費・諸経費の安さ」が25.1%と続く。
- 職業学科の高校として魅力的な特徴については、「資格取得（電気工事士、簿記実務検定、情報処理技術者など）」が61.6%と最も高く、次いで「実験・実習の充実」が23.8%と続く。
- 少子化が進む地域での県立高校のあり方について、「他校と統合し、通学不便者には別の支援を検討すべき」が36.2%で最も高く、次いで「小規模であっても存続すべきと思うが、学校運営を極力効率的に行うべき」と34.7%と続く。

■調査結果の概要

1 県立高校に期待すること

◇ 「大学等への進学」が43.6%と最も高く、次いで「個性・適性に沿った教育」が37.1%、「学費・諸経費の安さ」が25.1%と続く。

茨城県では、社会の変化や生徒の多様化（学習ニーズ、進路など）及び中学校卒業業者数の減少に適切に対応するため、県立高校の再編整備など、活力と魅力ある学校づくりに努めています。

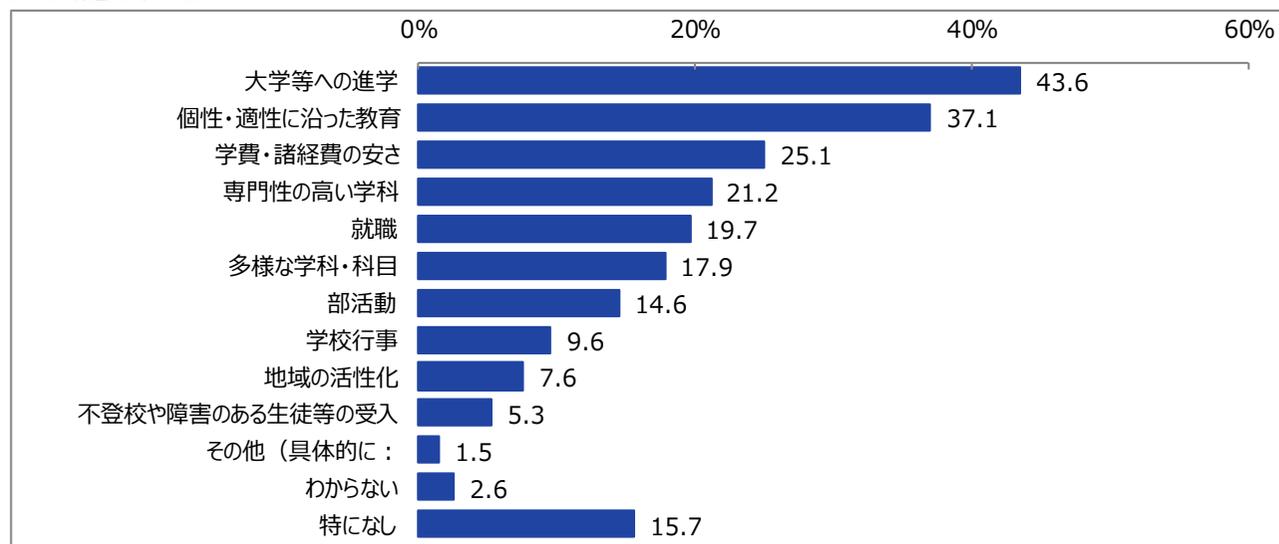
【参考】県教育委員会HP「県立高等学校改革プラン」（現在の計画）<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/koukou/gakkodukuri/kaikaku/index.html>

「県立高等学校の再編整備」（これまでの再編整備）<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/koukou/gakkodukuri/saihenseibi/index.html>

Q1.あなたが、県立高校に期待することについて、あてはまるものを3つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
大学等への進学	43.6	436
個性・適性に沿った教育	37.1	371
学費・諸経費の安さ	25.1	251
専門性の高い学科	21.2	212
就職	19.7	197
多様な学科・科目	17.9	179
部活動	14.6	146
学校行事	9.6	96
地域の活性化	7.6	76
不登校や障害のある生徒等の受入	5.3	53
その他（具体的に：	1.5	15
わからない	2.6	26
特になし	15.7	157



2 「個性・適性に沿った教育」で期待する教育内容

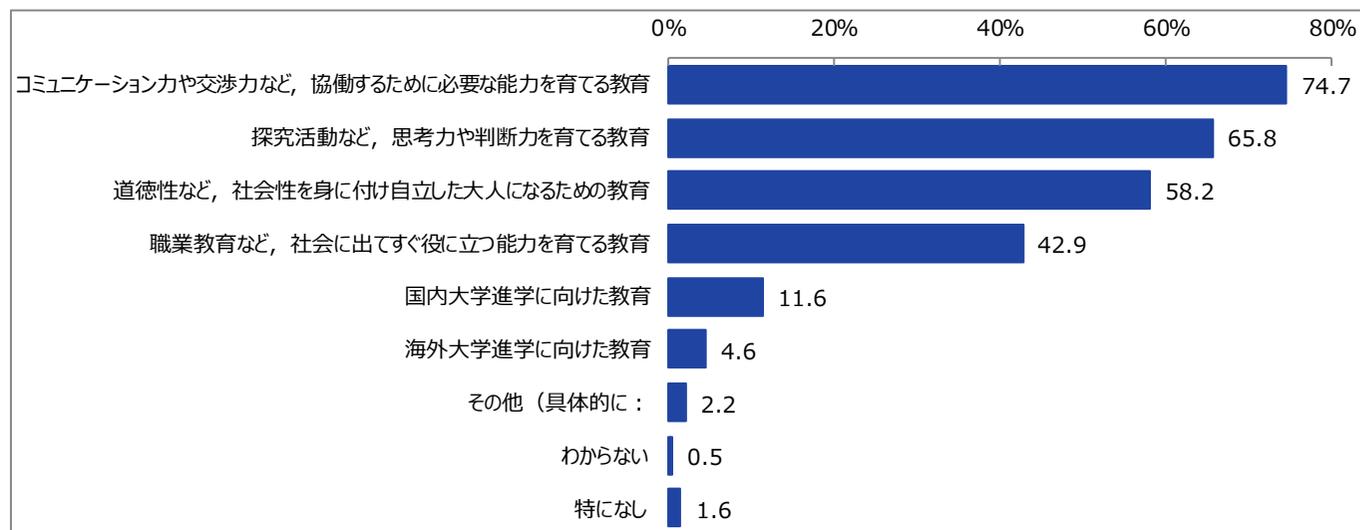
◇ 「コミュニケーション力や交渉力など、協働するために必要な能力を育てる教育」が74.7%で最も高く、次いで「探究活動など、思考力や判断力を育てる教育」が65.8%と続く。

(Q1で「3.個性・適性に沿った教育」と答えた方へ)

Q2.「個性・適性に沿った教育」に期待する場合、具体的にはどのような教育内容を期待するか、あてはまるものを3つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	371
コミュニケーション力や交渉力など、協働するために必要な能力を育てる教育	74.7	277
探究活動など、思考力や判断力を育てる教育	65.8	244
道徳性など、社会性を身に付け自立した大人になるための教育	58.2	216
職業教育など、社会に出てすぐ役に立つ能力を育てる教育	42.9	159
国内大学進学に向けた教育	11.6	43
海外大学進学に向けた教育	4.6	17
その他（具体的に：	2.2	8
わからない	0.5	2
特になし	1.6	6



3 「部活動」で期待する内容

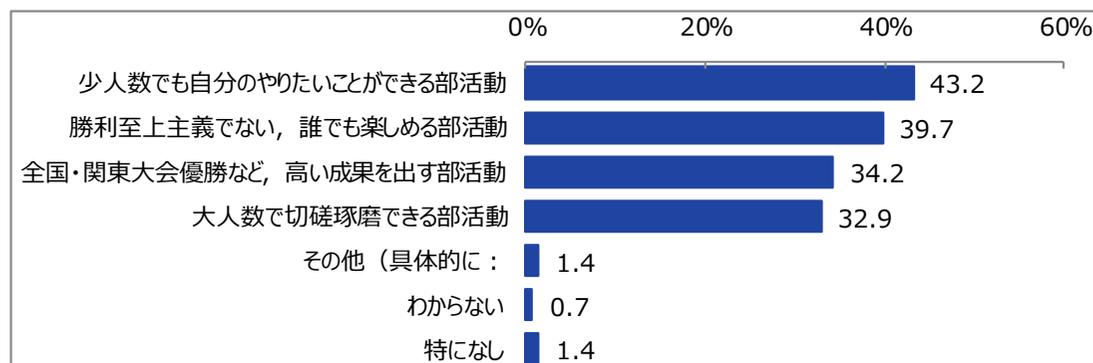
◇ 「少人数でも自分のやりたいことができる部活動」が43.2%で最も高く、次いで「勝利至上主義でない、誰でも楽しめる部活動」が39.7%と続く。

(Q1で「4.部活動」と答えた方へ)

Q3.「部活動」に期待する場合、具体的にはどのような部活動を期待するか、あてはまるものを2つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	146
少人数でも自分のやりたいことができる部活動	43.2	63
勝利至上主義でない、誰でも楽しめる部活動	39.7	58
全国・関東大会優勝など、高い成果を出す部活動	34.2	50
大人数で切磋琢磨できる部活動	32.9	48
その他（具体的に：	1.4	2
わからない	0.7	1
特になし	1.4	2



4 職業学科の卒業生の進路

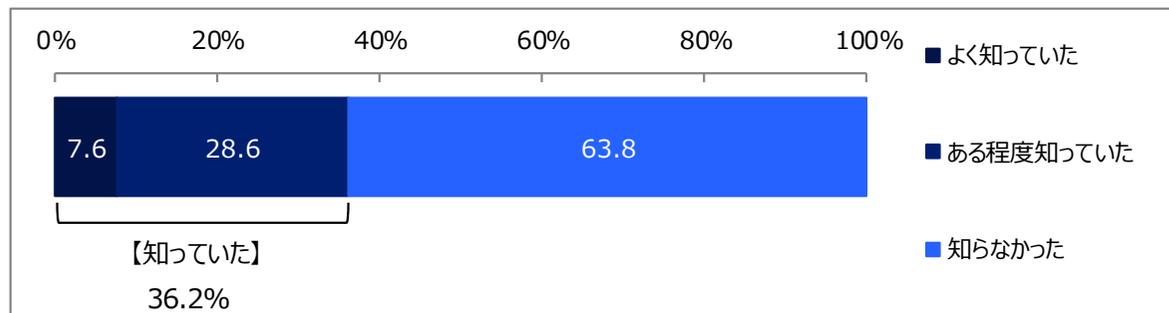
◇ 2割程度が大学等（短大を含む）に進学していることについて、「よく知っていた」（7.6%）と「ある程度知っていた」を合わせた【知っていた】が36.2%となっている。

Q4.あなたは、職業学科（※）の卒業生のうち、2割程度が大学等（短大を含む）に進学していることを知っていますか。（農業・工業：1割程度、商業・家庭：2割程度）

※職業学科とは、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉に関する学科を言います。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
よく知っていた	7.6	76
ある程度知っていた	28.6	286
知らなかった	63.8	638



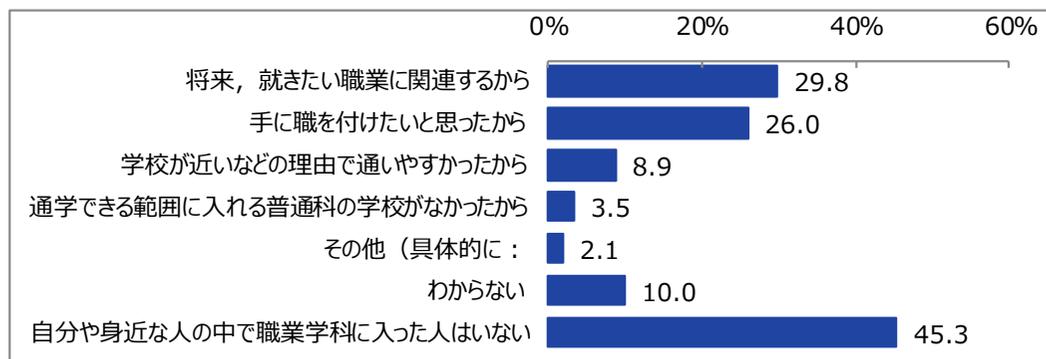
5 職業学科の高校を希望した理由

◇ 「将来、就きたい職業に関連するから」が29.8%で最も高く、次いで「手に職を付けたいと思ったから」が26.0%で続く。

Q5.自分や身近な人の中で職業学科の高校に入った人がある場合、その学校を希望した理由について、あてはまるものを2つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
将来、就きたい職業に関連するから	29.8	298
手に職を付けたいと思ったから	26.0	260
学校が近いなどの理由で通いやすかったから	8.9	89
通学できる範囲に入れる普通科の学校がなかったから	3.5	35
その他（具体的に：	2.1	21
わからない	10.0	100
自分や身近な人の中で職業学科に入った人はいない	45.3	453



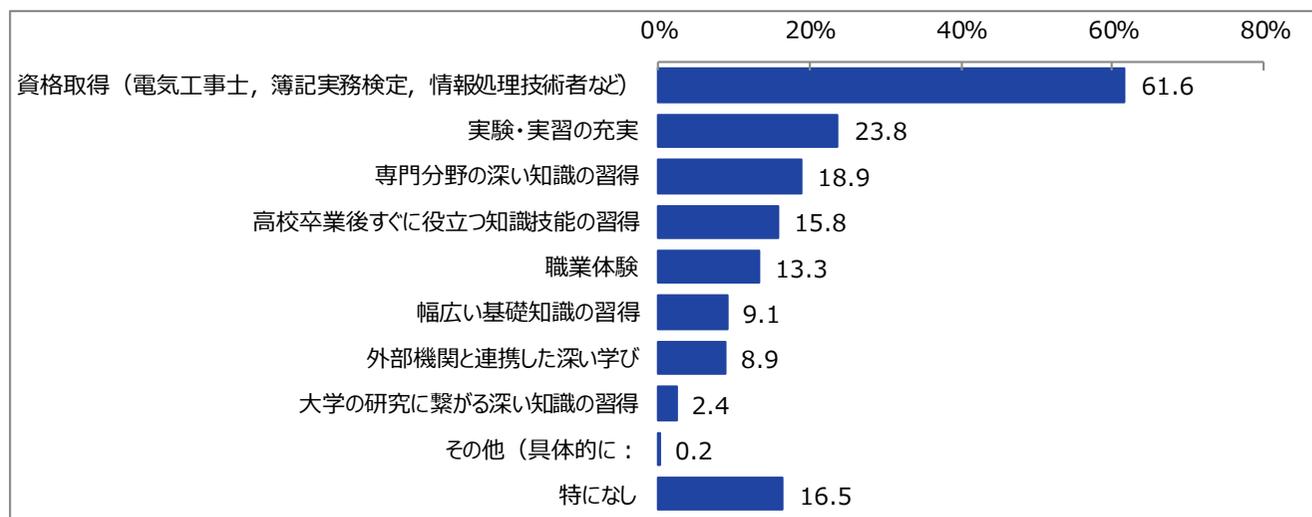
6 職業学科の高校として魅力的な特徴

◇ 「資格取得（電気工事士，簿記実務検定，情報処理技術者など）」が61.6%と最も高く，次いで「実験・実習の充実」が23.8%と続く。

Q6.職業学科の高校として，どんな特徴があると魅力的だと思いますか。あてはまるものを2つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
資格取得（電気工事士，簿記実務検定，情報処理技術者など）	61.6	616
実験・実習の充実	23.8	238
専門分野の深い知識の習得	18.9	189
高校卒業後すぐに役立つ知識技能の習得	15.8	158
職業体験	13.3	133
幅広い基礎知識の習得	9.1	91
外部機関と連携した深い学び	8.9	89
大学の研究に繋がる深い知識の習得	2.4	24
その他（具体的に：特になし	0.2	2
	16.5	165



7 理想的な学校規模

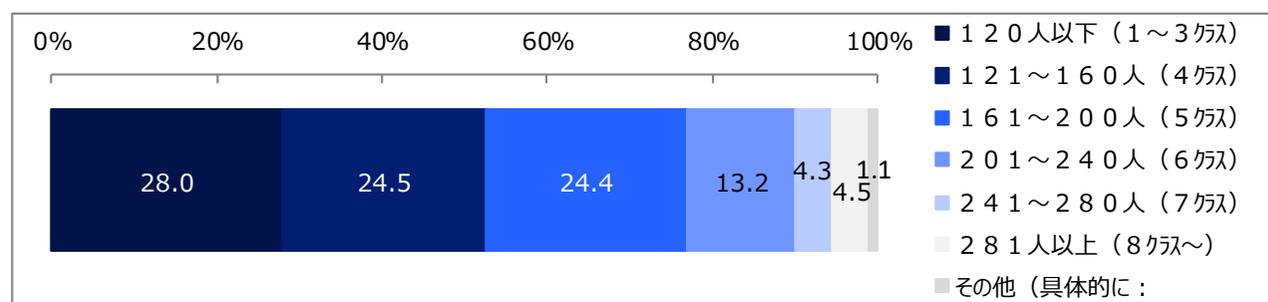
◇ 「120人以下（1～3クラス）」が28.0%で最も高く，次いで「121～160人（4クラス）」が24.5%，「161～200人（5クラス）」24.4%と続く。

次に，学校規模（1学年あたりの人数とクラス数）について伺います。茨城県では，平成元年3月の中学校卒業生数は約5万人でしたが，令和3年3月には約2万5千人に減少する見込みです。高校は，地域の核として期待されていますが，生徒数が少なくなり学校が小規模化すると，学習活動や課外活動が縮小し，学校全体の活力が失われるという指摘があります。現在，県立高校では，大規模な学校（1学年8クラス：11校）がある一方，小規模な学校（1学年2クラス：1校，1学年3クラス：8校）も増えています。平均では1校あたり5.36クラスとなっています。

Q7.あなたが，理想的と思う学校規模（1学年あたりの人数・クラス数）について，あてはまるものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
120人以下（1～3クラス）	28.0	280
121～160人（4クラス）	24.5	245
161～200人（5クラス）	24.4	244
201～240人（6クラス）	13.2	132
241～280人（7クラス）	4.3	43
281人以上（8クラス～）	4.5	45
その他（具体的に：	1.1	11



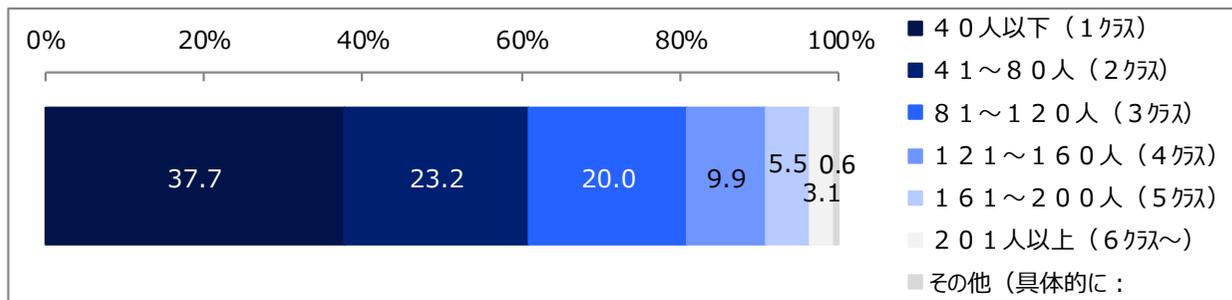
8 少子化が進む地域での現実的な学校規模

◇ 「40人以下（1クラス）」が37.7%で最も高く、次いで「41～80人（2クラス）」が23.2%と続く。

Q8.少子化の影響が大きい地域における現実的と思う学校規模（1学年あたりの人数・クラス数）について、あてはまるものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
40人以下（1クラス）	37.7	377
41～80人（2クラス）	23.2	232
81～120人（3クラス）	20.0	200
121～160人（4クラス）	9.9	99
161～200人（5クラス）	5.5	55
201人以上（6クラス～）	3.1	31
その他（具体的に：	0.6	6



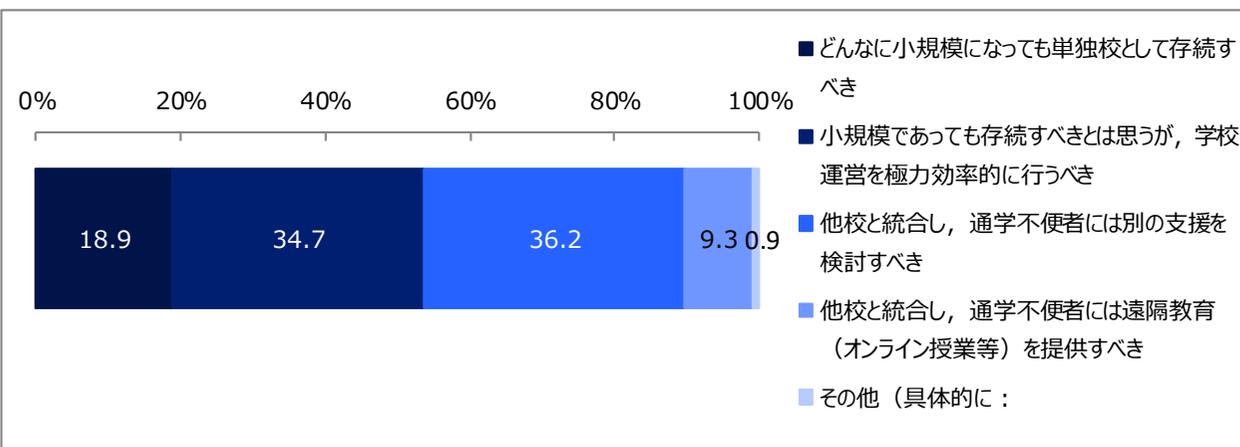
9 少子化が進む地域での県立高校のあり方

◇ 「他校と統合し、通学不便者には別の支援を検討すべき」が36.2%で最も高く、次いで「小規模であっても存続すべきとは思いますが、学校運営を極力効率的に行うべき」と34.7%と続く。

Q9.統廃合により地域に高校がなくなると、遠方の高校への通学を強いられる場合があります。少子化の影響が大きい地域における県立高校のあり方について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
どんなに小規模になっても単独校として存続すべき	18.9	189
小規模であっても存続すべきとは思いますが、学校運営を極力効率的に行うべき	34.7	347
他校と統合し、通学不便者には別の支援を検討すべき	36.2	362
他校と統合し、通学不便者には遠隔教育（オンライン授業等）を提供すべき	9.3	93
その他（具体的に：	0.9	9



■調査の目的

本県では、少子化や進路の多様化などに対応するため、平成31年2月に「県立高等学校改革プラン」の基本プランを策定し、活力と魅力ある県立高校づくりを進めている。本調査により、県民のニーズを把握し、真に必要とされる県立高校づくりの検討資料とする。

■実施概要

- ・実施期間 令和2年10月2日～10月9日
- ・サンプル数 茨城県常住人口調査（令和2年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		205	160	96	348	191	1,000
性別	男性	106	80	51	178	99	514
	女性	99	80	45	170	92	486
年代別	18～29歳	33	27	17	65	33	175
	30歳代	34	28	17	62	32	173
	40歳代	46	37	21	81	42	227
	50歳代	45	33	19	69	38	204
	60歳代	47	35	22	71	46	221

県北：日立市，常陸太田市，高萩市，北茨城市，ひたちなか市，常陸大宮市，那珂市，那珂郡，久慈郡

県央：水戸市，笠間市，小美玉市，東茨城郡

鹿行：鹿嶋市，潮来市，神栖市，行方市，鉾田市

県南：土浦市，石岡市，龍ヶ崎市，取手市，牛久市，つくば市，守谷市，稲敷市，かすみがうら市，つくばみらい市，稲敷郡，北相馬郡

県西：古河市，結城市，下妻市，常総市，筑西市，坂東市，桜川市，結城郡，猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。